物流ウィークリー
2017年11月27日　3面掲載

ユーエイキャスター「発電キャスター」

動態調査を見える化

ユーエイキャスター（雄島耕太社長、大阪府東大阪市）は20日から22日に東京ビッグサイトで開催された病院・福祉設備、医療機器が一堂に集う専門展示会『HOSPEX Japan 2017』に出展。今後の医療・福祉分野での活用が期待されるロボット、IoT、AI、ウェアラブル端末、VR技術などの集中展示企画として『次世代医療・福祉コーナー』へ出展。IoT SOLUTIONの提案として『発電キャスター』を参考出品。同製品は、エナジーハーベスティング（環境発電技術）で無線モジュールやセンサーを駆動できるキャスターとして、IoT「モノのインターネット」に電気を供給する。約5年前から構想・企画し今回の展示会が初お披露目となった。

同社ブースでは1日6回、使用例として、発電キャスターを装備した車いすを使ってデモンストレーションが行われた。発電キャスターに内蔵されたホールセンサーによって走行距離を見える化、またRFIDタグを用いた位置検知システムと組み合わせることで、車いすの移動・位置を検知し信号灯を点灯させる。発電キャスターと通信システムの組み合わせで「医療・介護施設で車いすの位置を知りたい」「移動補助具を使った日常生活動作のモニタリングをしたい」「施設内設備の使用頻度や動線を調査したい」といった動態調査に展開させることが可能となる。

また、同社は埼玉県飯能市の関東新工場の竣工式を開催。同社役員ら約40人が駆けつけ、竣工を祝った。新工場を供給体制強化とマザー機能を担う生産拠点と位置づけ、ニーズが多様化する市場に向け、生産力の向上と、デリバリーの強化を図っていく。

（木村麻理奈）